



新年を厳かに 早池峰神楽舞い初め

早池峰大償神楽の舞い初めが1月2日に神楽の館で、翌3日には早池峰岳神楽の舞い初めが早池峰神社参集殿でそれぞれ行われました。
大償神楽の舞い初めでは、「四人鳥舞」を皮切りに、正月に舞う「松迎」のほか、「裏三番叟」「木曾」「権現舞」など計10演目を披露。優雅で厳かな舞が各地から詰め掛けた神楽ファンを魅了しました。
国連教育科学文化機関(ユネスコ)無形文化遺産に指定されている早池峰神楽。伝統の舞で新しい年の訪れを祝いました。



新年を祝って正月に舞う「松迎」などが披露された大償神楽の舞い初め

「しめ飾り作り」で世代間交流

世代間交流事業「はやちねフェスタ」が12月13日、大迫町内川目の大迫労働安全衛生推進施設で開かれました。
参加した内川目小学校の児童と保護者がしめ飾り作りを体験。地元の老人クラブ会員などの手ほどきを受けながら、わらを使って縄をない、最後に短冊、水引、松竹梅などを飾り付け完成させました。
今回で3回目の参加の伊藤彩さん(同小5年)は、「去年よりきれいにできて良かった。玄関に飾って正月を迎えたい」とうれしそうに話していました。



世代間交流事業「はやちねフェスタ」でしめ飾り作りを体験する参加者の皆さん

図書館の魅力を満喫

「クリスマスことまつり in 図書館」が12月23日、東和図書館で開かれました。こととして3回目を迎える同まつりは、図書館の魅力を再発見してもらおうと、東和図書館結いの会と図書ボランティアサークルちえの輪で構成する図書館まつり実行委員会が主催したものです。
クリスマスツリーが飾られた館内で、子どもたちは工作や折り紙、本を題材にしたクイズラリーなどを満喫。宮沢賢治作品の絵本の読み聞かせでは、目を輝かせながら賢治の世界に引き込まれていました。



絵本の読み聞かせで、賢治童話に目を輝かせる子どもたち

地元高校生、初の栄冠

第14回全国高校生童話大賞表彰式が12月21日、なほんプラザで行われました。
数多くの心に残る童話を書いた宮沢賢治にちなんで、夢のある自由な表現を発揮する場として開催している同大賞。北海道から沖縄まで、全154校、1060編の作品の中から、花巻北高校3年の小田島夕花さんの「うまれる」が大賞の「金の星賞」を受賞しました。
大賞が県内から選ばれたのは今回が初めて。受賞した小田島さんは「これからも作品を書き続けたい」と意欲を見せました。



金の星賞作品「うまれる」の発想のきっかけとなった鈴を紹介する小田島さん

初滑りで氷の感触楽しむ

石鳥谷アイスアリーナが12月21日、今シーズンの営業を開始しました。
岩手国体に向けた施設改修のため、例年より1カ月半遅くオープン。無料開放された初日は、初滑りを待ちかねた家族連れやスケートファンなどが大勢来場しました。リンクを軽やかに滑走する人、手をつないでゆっくり前へ進む親子、転んで笑顔を見せる子どもたちなど、思い思いに氷の感触を楽しんでいました。
冬場の体力づくりの場として親しまれている同アリーナは、3月末まで営業します。



石鳥谷アイスアリーナで今シーズンの初滑りを楽しむ来場者の皆さん

福求め、熱い争奪戦

「胡四王蘇民祭」が1月2日、胡四王神社で行われ、下帯姿の男衆が無病息災や五穀豊穡などを願う、蘇民袋を取り合いました。
県内をはじめ東京都や岡山県、ハワイなどから約70人が参加。雪がちらつく中、たいまつを手に本堂まで練り歩く「裸参り」を行い、続く蘇民袋の争奪戦では、湯気を立ち上げながら激しいぶつかり合いを繰り広げました。
取り主となった菊地敏明さん(奥州市)は「家族に病気や事故がなく、平和に過ごせたら」と、家内安全を願っていました。



胡四王蘇民祭で、たいまつを手に力強く参道を上る男衆